

麻薬帳簿の記載方法

1 受入（麻薬卸売業者から購入した場合）

アンプル製剤の例

品名	ペチジン塩酸塩注射液（35mg）			単位	A（1mL）
年月日	受入	払出	残	備考	
H22.4.1			6	前帳簿から繰越し	
H22.4.27	40		46	日本卸売株	支店 EM - 3104 ~ 3107

バイアル製剤の例

品名	ケタラール注射液500mg			単位	V（10mL）
年月日	受入	払出	残	備考	
H22.4.27	10		10	日本卸売株	支店 AB - 1234 4月29日納品

- * 「受入」の年月日は麻薬卸売業者が作成した麻薬譲渡証に記載された年月日とし、譲渡証の日付と納品日が異なる場合は、納品日を備考欄に記載してください。
- * 購入先の麻薬卸売業者の名称及び製品番号を備考欄に記載してください。
- * 品名は、同一成分でも含量又は濃度が異なる場合は、別に記載する必要があるので、それぞれの口座を設けてください。また、同一成分かつ含量又は濃度が同じの異なる製造販売業者の製品についても、別に記載をお願いします。

2 払出し

- (1) 注射剤については、患者に施用した日をもって払出しとしてください。
- (2) 注射剤以外の錠剤・散剤・水剤・坐剤・貼付剤等については、調剤日をもって払出しとしてください。
- (3) 施用又は施用のために交付した患者の氏名を備考欄に記入してください。

ア 注射剤の場合

アンプル製剤の例

品名	モルヒネ塩酸塩注射液（10mg）			単位	A（1mL）
年月日	受入	払出	残	備考	
H22.4.1			46	前帳簿から繰越し	
H22.4.27		6	40	中夫（0.6mL廃棄）	立会者 林子
H22.5.7		2	38	破損（22.5.14 事故届提出）	
H22.5.10		1	37	本郎（1.0mL廃棄）	立会者 林子 5.20 調剤済麻薬廃棄届提出

- * 注射剤については、アンプル単位で記載してください。
- * 施用残液を廃棄した場合は、立会者の氏名及びその廃棄数量をmL単位で備考欄に記載してください。
- * 破損等の場合は、届出の提出年月日を備考欄に記載してください。
- * アンプルカット後、患者死亡等で全く施用しなかった麻薬については、薬液廃棄後30日以内に調剤済麻薬廃棄届を提出し、その旨を帳簿に記載してください。

通常のバイアル製剤の例 1

品名	ケタラール注射液200mg			単位	V (2 0 m L)
年月日	受入	払出	残	備考	
H22. 4. 25	5		5	日本卸売(株) 支店 AB - 1235 ~ 1239	
H22. 4. 27		1	4	中 夫 (18mL廃棄) 立会者 林 子	
H22. 5. 10		1	3	本 郎 (20mL廃棄) 立会者 林 子 5.25 調剤済麻薬廃棄届提出	

通常のバイアル製剤の例 2

品名	ケタラール注射液200mg			単位	m L
年月日	受入	払出	残	備考	
H22. 4. 25	1 0 0		1 0 0	日本卸売(株) 支店 AB - 1235 ~ 1239 5 V	
H22. 4. 27		2	9 8	中 夫	
H22. 5. 10		4	9 4	本 郎	
H22. 5. 10			8 0	(施用残14mL廃棄) 立会者 林 子	

* 1つのバイアルを複数の患者に施用する場合において、衛生面の確保が担保できない時は、使用途中のバイアルの残液は施用残として処理してください。

* 5月10日の廃棄は、1バイアルから4月27日に2mL及び5月10日に4mL施用した残液の廃棄です。

凍結乾燥した注射剤で水溶液等を用いて希釈し施用する製剤の例

品名	アルチバ静注用2mg			単位	
年月日	受入	払出	残	備考	
H22. 4. 25	1 0		1 0	日本卸売(株) 支店 AB - 0001 ~ 0010	
H22. 4. 27		1	9	(濃度50 μ g/mL) 中 夫 (15mL廃棄) 立会者 野 美	
H22. 5. 10		1	8	(濃度80 μ g/mL) 山 代 (15mL廃棄) 立会者 木 子	

* 凍結乾燥した注射剤を生理食塩水等で希釈し施用する製剤を帳簿に記載する場合は、濃度を備考欄に併記するようにしてください。ただし、特定の濃度以外で使用しない場合は、その濃度を品名欄等に()で記載することでその都度備考欄に濃度を記載する必要はありません。

イ 綿棒等で使用する塩酸コカイン液の場合

品名	1%塩酸コカイン液			単位	m L (払出欄を除く)
年月日	受入	払出 (綿棒数)	残量	備考	
H22. 6. 15			1 0	秤量確認 (6 / 1 ~ 6 / 15 3 0 m L 払出)	
H22. 6. 19	5 0		6 0	原末から予製	
H22. 6. 23		3 0 本		村 子ほか14名	
H22. 6. 30		1 0 本		田 彦 ほか4名	
H22. 6. 30			1 5	秤量確認 (6 / 16 ~ 6 / 30 4 5 m L 払出)	

- * 払出欄は、1日総使用綿棒数、線球数、滴数又はスプレー回数等を記載してください。
- * 残量欄は、毎日の記載は不要ですが、毎月15日と月末（常時使用しない施設にあっては月末1回でよい。）には、残量を計量し記載してください。
また、備考欄には、前回の残量計量日の翌日から当該計量日まで（例えば6月1日から6月15日まで、6月16日から6月30日まで）の総施用量（mL）を算出し、その施用量を記載してください。
- * 倍液の1回予製量は、1か月使用分以下又は50mL以下とし、患者数、施用量等を考慮して、必要最小限の量としてください。
- * 倍液の使用にあたっては、なるべく少量に小分けするなど残液の不良化、不潔化の防止を図ってください。

ウ コデイン、ジヒドロコデイン、エチルモルヒネ（ジオニン）の場合

品名 年月日	コデインリン酸塩散 1.0%			単位	g
	受入	払出	残量	備考	
H22.4.1			3.5	前帳簿から繰越し	
H22.9.19	100		103.5	原末から予製	
H22.9.20		10.5	93.0	木郎ほか3名	
H22.9.22		5.0	88.0	1%散を予製	
H22.9.23	100		188.0	日本卸売(株) 支店 FM - 3220	
H22.9.30			188.5	帳簿訂正(+0.5g 秤量誤差、立合者 田子)	
H22.9.30			188.5	年間届提出済(22.10.15提出)	

- * コデイン、ジヒドロコデイン、エチルモルヒネ（ジオニン）及びこれらの塩類については、患者ごとに払出した数量を記載する必要はありませんが、施用のあった日は総払出量及び残量を記載してください。
また、倍散を予製した場合には払い出し数量の記載が必要です。
- * 毎年9月30日の残量欄は、秤量し、記入しておくことが「麻薬管理者（施用者）の届（年間届）」の提出に当たり便利です。

エ アヘンチンキの場合

品名 年月日	アヘンチンキ			単位	mL
	受入	払出	残量	備考	
H22.4.1			14.3	前帳簿から繰越し	
H22.4.19		1.2	13.1	藤男	
H22.4.23		0.7	12.4	村子	
H22.4.30			10.0	帳簿訂正(-2.4mL 自然減量 立会者 川郎)	

- * アヘンチンキは滴数で処方することもあります。払出欄は、mLに換算して記載してください。（参考：調剤指針では、標準滴瓶を使用する場合は、45滴で1mLと記載されています。）

オ 貼付剤の場合

品名	デュロテップMTパッチ4.2mg			単位	枚
年月日	受入	払出	残量	備考	
H22.4.1			10	前帳簿から繰越し	
H22.4.19		3	7	藤 男	
H22.4.23		2	5	村 子 貼付後紛失	

- * 貼付し終わったもの、施用途中ではがれたもの及び途中で施用中止したもの(以下「貼付し終わったもの等」という。)は、注射剤の施用残液と同様、病棟から麻薬管理者に返却し、麻薬管理者が回収困難な方法で廃棄してください。ただし、調剤済麻薬廃棄届も帳簿の記載も必要ありません。
- * 貼付し終わったもの等を紛失した場合、麻薬事故届の提出は必要ありませんが、麻薬帳簿の備考欄にその旨を記載し、適正に取り扱うよう注意してください。

カ 坐剤の場合

品名	アンペック坐剤10mg			単位	個
年月日	受入	払出	残量	備考	
H22.4.15	30		30	日本卸売(株) 支店 TM - 320	
H22.4.19		1	29	山 郎 4.20 5mg 廃棄 立会者 川子	

- * 分割施用した場合、施用した残りは、麻薬管理者に返納し返納後、麻薬管理者は、他の職員立会いのもと、「施用に伴う消耗」として回収困難な方法で廃棄してください。帳簿の備考欄には麻薬の廃棄数量をmg単位で記載し、廃棄に立会った職員が署名又は記名押印します。この場合麻薬廃棄届や調剤済麻薬廃棄届の提出は、必要ありません。

キ 内服液剤の場合(モルヒネ塩酸塩10%散から調剤する場合)

品名	モルヒネ塩酸塩10%散			単位	g
年月日	受入	払出	残量	備考	
H22.4.1			5	前帳簿から繰越し	
H22.9.19		4.2	0.8	田 一	
H22.9.29	(89ml)		0.8	返納(田 一) 9.30 モルヒネ塩酸塩水剤89ml (濃度1mg/ml) 廃棄 立会者 川子 10.2 調剤済麻薬廃棄届提出	

- * 調整された内服液の返納があった場合は()書きで受入数量を記載(残量には加えないため)します。
- * 原則として調剤済の内服液剤を廃棄する場合は、未使用分、施用残液にかかわらず全て調剤済麻薬廃棄届の提出が必要です。

3 倍散・倍液の予製

麻薬帳簿は、剤型・濃度別に記載する必要があるため、原末から、倍散・倍液等を予製した場合は、それぞれの口座を設けてください。

(1) モルヒネ塩酸塩末を10%散に予製する場合

品名	塩酸モルヒネ末			単位	g
年月日	受入	払出	残	備考	
H22.4.1			1.5	前帳簿から繰越し	
H22.4.27		0.5	1.0	10%散に予製	
H22.5.7	5.0		6.0	日本卸売(株) 支店 R0 - 0256	

* 倍散を予製した場合は、帳簿のページを変え、次のような別口座を設けてください。

品名	モルヒネ塩酸塩10%散			単位	g
年月日	受入	払出	残	備考	
H22.4.1			2.5	前帳簿から繰越し	
H22.4.26		1.2	1.3	中 朗	
H22.4.27	5.0		6.3	原末から予製	
H22.4.27			5.8	帳簿訂正(-0.5g秤量誤差 立会者 川子)	
H22.5.7		1.5	4.3	中 朗	

(2) コデイン、ジヒドロコデイン、エチルモルヒネ(ジオニン)末を1%散に予製する場合

品名	リン酸コデイン末			単位	g
年月日	受入	払出	残	備考	
H22.4.1			30	前帳簿から繰越し	
H22.4.27		10	20	1%散に予製	
H22.5.7		10	10	1%散に予製	

* コデイン、ジヒドロコデイン、エチルモルヒネ(ジオニン)については、1%以下の倍散・倍液は麻薬とならないため、予製する場合は予製元の口座からの払出しを記載するだけでよく、1%以下の倍散・倍液の口座を新たに設ける必要はありません。

4 患者からの譲受け・返納

(1) 外来患者又は入院患者から施用中止、飲み残しなどの理由により譲り受けた麻薬についても帳簿に記載しなければなりません。この場合、備考欄に譲り受けた患者の氏名を記載してください。

また、同日中に多数の患者から麻薬の返納があった場合には、患者ごとに返納数量が分かるように記載してください。

(2) 患者から返却された麻薬数量を受入欄に記載する際は、麻薬卸売業者から購入した数量とは区別できる方法で記載してください。

(3) 譲り受けた麻薬を廃棄する場合は、備考欄に次の事項を併せて記載してください。

- ・ 廃棄年月日
- ・ 調剤済麻薬廃棄届の提出年月日
- ・ 廃棄の立会者の署名又は記名押印

- (4) 廃棄する麻薬の記録については、別帳簿（麻薬廃棄簿等）を設けて処理した方が便利です。

ア 患者等から返納された麻薬の記載例（麻薬帳簿を使用する場合）

品名 年月日	MSコンチン錠 (10mg)			単位	錠	備考
	受入	払出	残			
H22.4.1			221			前帳簿から繰越し
H22.4.27		8	213			橋子
H22.5.1	(10)					返納(藤朗(6錠)、田夫(4錠)) 5.31廃棄 6.5調剤済麻薬廃棄届提出 立会者 川子
H22.5.2	(4)					返納(橋子) 5.31廃棄 6.5調剤済麻薬廃棄届提出 立会者 川子
H22.5.2		18	195			中彦
H22.5.3	* (6)		201			返納(木夫)
H22.5.16	(8)		201			田美持参、入院後施用(病棟管理)

- * 患者から返納された麻薬数量を受入欄に記載する際には、麻薬卸売業者から購入した数量と区別できるように、() を付けて記載してください。
- * 患者から返納された麻薬を廃棄する場合は、残量に加えないでください。
- * 返納された麻薬を再利用する場合（院内で処方された麻薬が入院患者より返納された場合のみ再利用可能）は、受入数量を残量に加え、備考欄に返納のあった患者の氏名を記入してください。このとき、再利用しない麻薬と区別するために*印を付けてください。
- * 再入院、他の医療機関から転院により患者が持参した麻薬を引き続きその患者に施用する場合は、受入欄に受入数量を()書きで記載し、残量には加えず、備考欄に麻薬を譲り受けた患者の氏名及び入院後施用の旨と患者管理、病棟管理の区別を記載してください。

イ 患者等から返納された麻薬の記載例（麻薬廃棄簿を使用する場合）

品名 受入年月日	MSコンチン錠 (10mg)			単位	錠	廃棄方法	粉砕放流
	受入数	廃棄年月日	立会人署名				
H22.5.1	10	H22.5.31	川子		H22.6.5	藤朗(6錠)、 田夫(4錠)	
H22.4.25	4	"	川子		"	橋子	

ウ モルヒネ塩酸塩坐剤等を廃棄する場合（麻薬廃棄簿を使用する場合）

品名 受入年月日	モルヒネ塩酸塩坐剤 (25mg/個)			単位	個	廃棄方法	粉砕放流
	受入数	廃棄年月日	立会人署名				
H22.10.25	12	H22.10.31	川子		H22.11.5	藤朗	
H22.10.25	8	"	川子		"	橋子	

- * 特定の濃度以外で製剤しない場合は、その濃度を「品名」欄に、「塩酸モルヒネ坐剤（25mg/個）」等と記載し、その都度含量を記載する必要はありません。
- * 塩酸モルヒネ水剤、リン酸コデイン水剤、アヘンチンキ水剤等の水剤、塩酸モルヒネ散剤等の散剤については、「品名」欄に「塩酸モルヒネ水剤」等と記載し、含量を記載する必要はありません。

エ 入院する患者が持参した麻薬の記載例（麻薬帳簿を使用する場合）

品名	オキシコンチン錠（20mg）		単位	錠	備考
年月日	受入	払出	残		
H22.4.1			221	前帳簿から繰越し	
H22.5.1	(30)			山美持参、30錠病棟に払出（病棟管理）	
H22.5.12	(19)			返納（山美）19錠 5.13廃棄 5.25調剤済麻薬廃棄届提出 立会者 田子	
H22.6.3	(22)			川雄持参、10錠病棟に払出（本人管理） 6.3廃棄（12錠） 6.25調剤済麻薬廃棄届提出 立会者 田子	
H22.6.11	(8)			返納（川雄）8錠 6.12廃棄 6.25調剤済麻薬廃棄届提出 立会者 木子	

- * 入院する患者が病院で採用されていない麻薬を持参した場合は、新たにその品目の麻薬帳簿を作成してください。
- * 入院患者が持参した麻薬は、患者に継続使用する場合も必ず麻薬帳簿に記載してください。
- * 患者に継続使用した後、患者死亡、投与変更等の理由で返納された場合も必ず帳簿に記載してください。なお、別の患者には再利用しないで下さい。
- * 廃棄する際は廃棄後30日以内に調剤済麻薬廃棄届を提出し帳簿にその旨を記載してください。

オ 入院する患者が持参した麻薬の記載例（持参麻薬専用帳簿を使用する場合）

年月日	薬品名	数量	患者氏名	備考
H22.4.25	デュロテップ [®] MT [®] ヲツ (4.2mg)	持参 10枚	野次	病棟管理 廃棄日5.7 立会者 田子 5.25調剤済麻薬廃棄届提出
		廃棄 3枚		
H22.5.1	オプソ内服液 (5mg)	持参 10包	山一	本人管理
		廃棄 0包		
H22.5.12	オキシコドン錠 (20mg)	持参 3錠	木美	継続施用せず全量廃棄 廃棄日5.14 立会者 田子 5.25調剤済麻薬廃棄届提出
		廃棄 3錠		

5 麻薬廃棄届

品名	オピアル皮下注 20mg			単位	A (1mL)
年月日	受入	払出	残	備考	
H22.4.1			5	前帳簿から繰越し	
H22.9.27		5	0	廃棄(廃棄届出年月日(H22.9.23)) 立会者 保健所薬事監視員 山 男 印 中 子 印	

- * 年月日欄には、保健所職員の立会のもと、廃棄した年月日を記載してください。
- * 備考欄は、廃棄後、保健所職員が記名押印または署名します。

6 麻薬事故届

品名	モルヒネ塩酸塩注射液 (10mg)			単位	A (1mL)
年月日	受入	払出	残	備考	
H22.4.1			46	前帳簿から繰越し	
H22.4.27		6	40	中 夫 (1.2mL廃棄) 立会者 田 子	
H22.5.7		2	38	破損 (H22.5.9 事故届提出)	

- * 払出欄に事故麻薬の数量を記載し、備考欄に事故の形態及び麻薬事故届の提出年月日を記載してください。
- * 注射剤の破損により、残余麻薬があり、廃棄を必要とする場合は、事故届に詳細に記載の上、麻薬診療施設の他の職員立会のもと廃棄し、備考欄に立会者と廃棄した量を記入してください。
- * 麻薬事故の場合は(破損等を含む)、管理者は必ず事実確認を行ってください。

7 麻薬管理者の変更

品名	モルヒネ塩酸塩注射液 (10mg)			単位	A (1mL)
年月日	受入	払出	残	備考	
H22.1.25	60		60	日本卸売(株) 支店 AB - 1245 ~ 1250	
H22.1.27		6	54	中 夫	
H22.1.31			54	麻薬管理者変更 前任者 山 太 印 後任者 谷 子 印	

- * 麻薬管理者変更の際は在庫確認の上、麻薬管理者変更の旨を備考欄に記載し、前任者、後任者連名で署名又は記名・押印し、引継ぎが明確になるようにしてください。
なお、ページを変えて記載したり、帳簿を変えて記載してもかまいません。